2024 年 9 月 10 日

2024 年度　第 1 回美容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時　　2024 年 9 月 10 日(火)　13:30-15:30

2. 開催場所　　埼玉県理容美容専門学校　　地下多目的室

3. 出 席 者　　6 名
欠 席　1 名　深山　裕孝　　埼玉県美容業生活衛生同業組合

	氏　名	所　属
1	秋山　幸子	埼玉県美容業生活衛生同業組合　久喜支部
2	柏木　恵	埼玉県美容業生活衛生同業組合　蕨支部長
3	古川　聡	埼玉県美容業生活衛生同業組合　常任理事
4	増村　信雄	埼玉県理容美容専門学校　校長
5	千住　義祐	埼玉県理容美容専門学校　法人本部長
6	井上　強	埼玉県理容美容専門学校　理容科教員

4. 学校長　開会挨拶　（増村校長）

5. 2024 年度第 1 回・教育課程編成委員会の目的　（司会・千住課長）

【教育課程編成委員　目標の確認】

・ 資料 / 職業実践専門課程・職業教育について文科省が認可した専門学校

職業実践専門課程とは、職業人を育成する目的で専門性の高い職業訓練的な課程を持つことにある。本会議は職業実践授業について、業界から意見聴取をすることで企業連携を密にし、またより効果的な教育課程編成を実施する目的で運営されている。

是非、委員から職業人としての忌憚のない意見を伺い、また活発な意見交換を行いたい。

・ 資料・手引き / 本委員会の定義の説明

学校が主体的かつ統括的に関係部局などの意見や要請などをまとめ、教育課程編

成に寄与する。会議運営は教育課程を計画的に実行するために連続的に実施することが求められている。

・ 資料・募集要項　/ アドミッション・ポリシー

本会議は年 2 回開催設定である。前期・後期に対してそれぞれ 9 月、後期結果を 2 月後半に設定している。日程は後ほど調整する。次年度に意見をすぐ活かしていきたい。

6. 現況報告 （美容科教員・教務主幹　本橋 孝則）

□1 年生の取り組み

美容技術・ワインディングは通年を通して学ぶが、前期の夏季休暇前までは全頭 40 分をオールパーパスで実施している。

休暇後は国家試験課題で配列の変化があるものを始めて、後期の 10 月からは 25 分で全頭を巻くことにステップアップする予定である。

カット技術は、ウイッグを使用してベーシック・カットを学びもシャンプーは相モデルでファースト・シャンプー練習を始めている。

その他、ヘアアレンジとアップ、カラーはブリーチとヘアマニュキアを学んでいる。

また、9 月末の秋期休み前に校外実習を 2 日間実施し、職業観を養う予定である。

10 月からの重点課題は、9 月末の感謝祭や 3 月の競技会など各自の技術発表に向けた基礎技術の研鑽と、サロン技術に直結したシャンプー実習への取り組みである。

後期から本格的な技術に入るため、メンタル面でのフォローの目的で秋期休み期間の間に全員に対して個別面談を設けている。

□ 2 年生の取り組み

国家試験課題に対応した授業が中心となるため、学科授業の苦手意識を払拭してモチベーションの維持と、学力レベルの確保が重点課題となる。

現在は課題の遅れた学生に対して放課後補習や朝練習などの時間を適宜設けている。

就職への意識の低い学生が増えており、職業意識を啓発するため年齢の近い卒業生を招聘した講話によるモチベーション向上を実施している。

サロンワーク授業では実践的な技術として、サロンスタイルのカットやサロンワークの演習などを取り入れている。

また、総合技術(テクニカ)を選択科目として、カット・カラーやメイクについて実施しているが、カット・カラーについては埼玉県美容技術協会から現役で活躍している美容師を派遣していただき、実践的な技術を習得している。

7. 学生の現状　（本部長　千住義祐）

かつて、手に職をつける必要に迫られて美容業に就こうとした時代の学生は退学や離職が少なかった。その後、美容がトレンドになった時代の学生は就職後に業界でのギャップの大きさに対するショックから、早期離職が増加した。

現在は、美容以外の職業選択肢が増え、かつ美容業にも多様性がある時代である。

また社会全体がプライベート優先の傾向があり学生の価値観も変化している。

更に、一人親家庭の増加など生活環境の悪化による経済的な問題も増えている。

学生間の人間関係についても SNS 上でのトラブルが散見されており、いずれの場合も教員が指導や助言などのアプローチに苦慮している。

また、実際 2 年生の夏休み明けに退学する学生があったが、理由は高収入のアルバイトの方に魅力があるという短絡的な考えによるものであった。

金銭的な感覚は、仮想通貨やネットビジネスなどで巨額の収入を得られるイメージがあり、「お金は楽をして手に入れられる」もので努力の先にあるという意識は低くなっている。

司会　それでは、以上の点を踏まえて委員の皆さんから忌憚のない意見を伺いたい。

8. 質問・アドバイス等

秋山　生徒たちは何をやりたいと思っているのか?夢や目的を持っているのか?確かに学生の意識は変化しており、学校の在り方そのものを変えた例もある。

教員と学生のラポールの作り方については、会食などの機会を設けてみんなで集まって何かを共有する経験が日である。コロナ禍以降コミュニケーションをとる経験値が少ない学生に対して、学生を理解するために教員からのアプローチが必須である。

実際、コミュニケーション・ワークについてはどの程度、取り組んでいるのか。

千住　リベラルアーツという教養科目の中で、グループで計画を立て行動すること、問題解決をすることなど体験的な学びを進めており、効果は感じている。

また、自己紹介ではなく相手を紹介する「他己紹介」などの工夫もコミュニケーションの 1 つとして考えたい。

柏木　現在の美容業界では、アップスタイルや着付けをしない、七五三の子供はやらないというサロンも増えている。学生たちはそうしたことに興味はあるのか。

本橋　１年次から２年次まで「日本文化」の授業があるが、概ね興味を持って着付け技術と日本髪を含めたアップスタイルに取り組んでいる。

柏木　早期退職の理由はなんなのか?

本橋　やはり職場の人間関係について悩んで離職するケースは多いと感じる。職場で同僚スタッフや店主とのコミュニケーションがうまく取れない、という事から相互の信頼関係が作れず離職している。

古川　学生時代はもちろんだが、就職先でもコミュニケーションの力を養う機会が必要だと考える。特に面識のない人とコミュニケーションが取れないとこの仕事はできない。例えば名刺交換会などで、ゲーム的にたくさんもらった人が勝ちのようにインタビューゲームなど楽しみながら学べると良い。

秋山　人を知るということの意外性を楽しんで欲しい。これには、相互のリスペクトが不可欠になる。だから互いに人のいいところに着目するという習慣をつけて欲しい。特に指導するについて、教員の立ち位置を下げずに、目線を下げるという姿勢が欲しい。また、自分を知るという事、人からどう見られているかを認識するようになってほしい。

柏木　最近の人は返事をしないと感じる。声を出さないと接客できない。

秋山　先ごろのパリ・オリンピックでは、その選手が負けている状況でも笑顔を絶やさずメンタルをコントロールして、結果はメダルにつながった例がある。感情のコントロールと笑顔の大切さをどうやって訓練するかは課題である。

古川　学生が採点者になる体験。例えば、笑顔コンテストなど。どこを見て、どう評価するかど、採点される一方通行なコミュニケーションからの転換も良いと思う。実技や実習に取り入れることも良いのではないか。

秋山　実際に他校では、実習作品の評価を学生にさせる試みをしているケースがある。教員は指示ではなく、サポートをするという認識が今後は必要ではないか。ノウハウは教えても指示しすぎないスタンスが大切になっている。

厳しいといわれる学校では、教員の指導では無く学生が自主的に行動している。

古川　アドミッション・ポリシーの共有を徹底すべきであり、教員もこれを認識して行動すればクラス間格差も小さくなる。学校の目的や姿勢が定まらないのでは指導もできない。学生もどこを向けばよいのか不安になる。

司会　それでは、今後の課題を以下にまとめる。

①　学生に評価をさせるなど自発的な授業参加を促す

② グループワークなどを通して仲間意識を持たせ、コミュニケーション能力を充実させる。

② 興味をもたせ、かつ参加して体感できる楽しみなどがある魅力的なカリキュラム作成を進めて退学率の低下を図る。

司会　いただいた意見をもとに、アドバイスを後期の授業に取り入れていく。結果は後期の会議で報告します。

今後の予定を協議し、次回は 2 月 18 日(火)に美容教育課程編成委員会を開催することを決める。

校長　貴重なご意見ありがとうございます。「人をリスペクトとしつつ興味をもつ」ことを学生に教授するため、教員の意識を変えて学生と適切な距離感をもっていきたい。これにより将来美容業に就く人材の育成に今後も尽力していきたい。